

第5回 渋谷区立学校の在り方検討委員会 会議要旨

- 1 開催日時 令和2年11月12日(木) 10時00分～11時40分
- 2 開催場所 渋谷区役所8階 814会議室
- 3 出席者
(委員) 14人出席
(事務局)
教育政策課長、学務課長、教育指導課長、地域学校支援課長、教育センター所長、
教育政策課教育庶務係・学校施設係職員

傍聴者 3人

1. 開会

(委員長)

○3名の傍聴希望者あり。委員会に傍聴の許可を諮った結果、異議がなかったので許可。

(事務局)

○現時点で14名の委員全員が出席していることを確認し、会議は成立していることを報告。

○第4回検討委員会会議要旨について、あらかじめ各委員に確認して頂き、修正意見を反映した会議要旨を配布。修正箇所について報告。

2 議事

・学校施設の目指すべき姿、学校施設長寿命化計画素案について

(委員長)

議事に入る。議事は、「学校施設の目指すべき姿」及び「学校施設長寿命化計画素案」である。事務局に資料の説明を求める。

(事務局)

資料1-1「第4回意見の整理」、資料1-2「学校施設の目指すべき姿(案)」、資料1-3「学校適正規模・適正配置に向けた取組みとの連携について(案)」、資料2「渋谷区学校施設長寿命化計画 素案」について説明。

(委員長)

これから審議に入りたい。発言を制限せず、全体について発言を頂きたい。

(副委員長)

長寿命化計画のまとめということだが、パブリックコメントでは骨子ではなく、素案が全体的に公開されるのか。

(事務局)

素案と同レベルで公開していきたい。

(副委員長)

今までの議論を集約してまとめていただいている。5～6ページに要約版があるが、資料の1～2の説明は防災の関係が安全の確保の中で述べられているが、最後のポイント2に移行しているので、そのあたりの組み立て方として、検討の流れからはどちらかに合わせた方がよいのではないかと。

ポイント1の時代のニーズにこたえた教育環境について、視点のところで項目ごとにまとめて頂いているが、赤字の2、3、5の項目の順序がどう影響するかはわからないが、渋谷区の政策の主旨からすると、3の「ダイバーシティとインクルージョン」の方が2の「ICTを活用できる施設整備」よりも前ではないかと思った。理念に関わってくるころなので、技術的なICTよりも上ではないか。

ポイント2のところであるが、避難所としての防災機能の部分が若干少なくなっているの、若干長くなるかもしれないが視点に入れておいた方がよいのではないかと。

5～6ページと、次の目指すべき姿の項目立てを少しそろえた方がよいのかどうか、上から読んでいくとそのような気がする。

3点目は22ページあたりの劣化評価基準のD評価については事例が示されているが、区民の方にはA、B、Cがどのような状態なのか示した方がよいのではないかと。Bの部分的に劣化している状態を長寿命化計画の中でどのように意識すべきか、Bを放置しておくことCの状態になってしまうということで、BとCのつながりをどうするのかは計画の中では大事だと思われる。

38ページの、IからVの項目は、その後の表現でリンクして頂きたいことと、IV、Vくらいでは依然としてトイレの様式化やバリアフリーがあげられているが、ここは少し精査をする必要がある。この時代に多目的トイレということもないだろう。全体としてはよく取りまとめられている。

(委員)

副委員長と同意見。初めて見た人が意見を言えるようにする必要がある。私たちも4回議論をしてきたが、それを隈なく盛り込んでいこうとするならば、このようになると思われるが、これからパブリックコメントとして意見を求めるのであればもう少しシンプルに、またニュートラルな意見を求めるならば、ハードの面とソフトの面のボリュームも精査が必要である。

(委員長)

初めて読まれる方に分かりやすい構成が必要ということであった。

(委員)

予算の部分で、これだけのお金がかかるといったときに、財源の確保ができるのだろうか。10年間でどのぐらいの規模を書くべきか、渋谷区はどうやってやるのかが気になった。また、区民に意見を求めるときに、何を求めるべきか。コメントしやすいようにすべきであろう。

(委員)

もともとはハードを考えるということだったが、教育の質に議論が移り、その議論をハードに反映してきた。プランとしてはよくできたが、これをどう実行していくか。教育は、昔は教師と教室と教科書があればできたが、ICTの技術が必要になったり、ダイバーシティという考え方が入ってきたりということで、これまでのような範囲では賅えなくなってきたということが、ソフトの議論の中で感じたことである。このプランを学校に投げ掛ければ実行できるということではない。校長先生をピラミッドとした組織ではなく、校長と違う役職、今までの教育とは大きく違うスキームなどが必要となる。

(委員)

私たちのように流れがわかっていない人に意見を求めるならば配慮が必要。ドキュメントとしては包括的であるが、どのように実現していくのか。実現までの難易度が上がっている。実現するならば、渋谷区の視点はダイバーシティなど重要視しているものがあると思うが、区の方針にあったもので、プライオリティを持った方がよい。コミュニティスペースと家でもできるオンラインに注力するのか、の2択になったときに、渋谷区の視点からプライオリティをつけていくことが大切になってくるのではないか。

(委員長)

包括的になるとプライオリティが曖昧になるという意見であった。

(委員)

すごくよくまとまっている。これをベースにどう運営していくのか。どういう組織で実行していくのか。ティール組織、上長がマネジメントをしなくても進化しつづけられる組織を目指しているものがあるが、ドイツのベルリンにそうした学校があって、渋谷区ではどんな組織を作るかが重要だと思った。

(委員)

地域との連携・協働の促進は肝になってくる部分と思う。ハードが変わると地域との関わりも変わると思うが、すぐに連携するのは地域まかせでは難しい。地域コーディネーターにも、もっと活発に活動してもらうため、校長が選任するのではなかなかこれまでの付き合い等で変わらない、瞬発力をもって地域と連携するのは難しい。例えば、選挙など、地域と学校をつなげられる人を選ぶ必要がある。この計画の肝の部分はハードが変わったときに実現するのではないか

(委員)

6ページのポイント2 避難所の機能を強調して入れて頂きたい。3のダイバーシティを上にもしてもらいたい。バリアフリーは強調してもらいたい。洋式トイレにしたときに、狭くなった経験がある。バリアフリーをたくさん研究して、今後の学校を建てて頂きたいと思った。

(委員)

資料6ページの、新学習指導要領への対応は違うのではないか。この委員会の議論は学習指導要領を超えている。全体的にはよくまとまっている。言いたいことが3つある。電灯のLED化は進められないか。どう具体化されるのかを学校・幼稚園は知りたい、どう大規模改修、改築がなされるのか具体的な計画を知りたい。予算配分も検討して頂きたい。エアコンを維持していくための清掃費やメンテナンスなどの計画も立てて行って頂きたい。

(委員)

長寿命化計画でハードを整えるにあたり、2、3、4章で様々な意見をまとめておき、工事をする際に振り返るための貴重な資料ができた。20、30年と経つうちに、教育は変わっていくと思うが、振り返るための資料ができたと思う。様々な人の見識等をどう活かしていくのか参考となった。

(委員)

選ばれる公立校というのは魅力的な言葉。渋谷区は私立の中学校に行く子どもが非常に多い。今後の

推移をみても6学級の中学校が多い。魅力的な学校を作ること、今後変わってくるのではないかという期待がある。8月の学校説明会では、普段よりも児童・保護者に多く足を運んでもらった。選ばれる公立校を頭に置いておきたい。

(委員)

2章のところで、立ち返るポイントができた。何を優先させていくのか、しっかり考えていかなければならない。安全であることを前提として、どういう学校をつくっていくのか。こういう方向でやっていくために、学校と連携したい。

(委員)

パブコメでの見せ方として概要版のようなものを出したらよいのではないか。ハード面・ソフト面での整備について、技術面では区のICT部門とも組織的な対応が必要。コスト面では莫大な予算が必要となってくる。他の所管の個別施設計画とも整合性をとりながら、組織的な調整が必要となってくる。

(委員長)

この素案は個別の意見を全て取り込んでいる。我々の目指す学校が検討され、ハードとどう繋がっていくのか。様々な区の計画と整理され、プロセスとともに、流れがわかる説明があるとよい。副委員長や他の委員がおっしゃったように、新学習指導要領の話があったが、渋谷区らしい理念がハードにどう繋がっていくのか、今後細かなところの検討も必要。

(委員)

実現に向けてというのが課題ということがわかった。渋谷区の基本構想は良いものだが、基本構想をゴールとして、その下にある学校とすると、視点がブレないのではないか。

(委員)

第2回委員会で他の委員も指摘されていたが、学校のビジョンが一目でわかるようなものを見せて、この内容を読んでもらうのがよい。

(委員)

さきほどの話の続き。会社での中期経営計画では、予算と人の配置で実現していく。具体的に、選ばれる学校になるには、ビジョンと個性を持ち、アクションを積み重ねていかないといけない。地域との共生で個性を伸ばして行ってブランディングにつながる。公立の先生ではローテーションがあるが、2～3年で先生が変わってしまうと、差別化がされない。企業であれば、ローテーションに関する戦略性がある。先生では辞令が出るまでどこに行くかわからないという状況。

(委員長)

渋谷区だけの問題ではなく、東京都も巻き込む大きな話であった。

(委員)

中学校の先生でも個性を出している。校長先生が代わることは良い面もあるが、ビジョンが変わることもある。学校ごとにビジョンをもつしかない。地域にとってもどう接するのかわからなくなる。

(委員)

前日も同じことを言ったが、渋谷区の教育目標・ビジョンがある。渋谷区はICTということで目一杯使っていこうとしている。勝手気ままにやっていくということではなく、渋谷区の方針がブレなければ大丈夫である。

(委員)

校長が変わったとたんに学校の経営方針が変わってしまうという極端なことはないと思うが、コミュニティスクールの取り組みについて、地域・保護者の意見を継続的に取り組んでいくことが大事である。

(副委員長)

コミュニティスペースとデバイスの2択という話があったが、ここはあまり矛盾しないでいける。という空間を作るかは今回の計画では少し弱い部分。躯体・劣化等のウェイトが高い。5、6章がリンク仕切れていない。2章とすくなくとも4章、6章。ソフト面も含めたPDCAサイクルをどうするか。ハード面だけでなく、地域住民の参画などをどうするか。工夫が必要ではないか。選ばれる公立学校というのは重要である。

(事務局)

再度、再構成をしていきたい。教育委員会としても目指すべき姿として実現していきたい。今後の進め方という点もあった。適宜振り返りをしながら、一つ一つのテーマを実現していきたい。教育委員会だけで完結するものではない。学校の建て替えとなると、地域の関わり、再開発との連動も視野に入れ、渋谷区が一丸となって取り組んでいかないといけない。資料・内容のブラッシュアップを図っていきたい。

(委員長)

時間となったので議論を打ち切りたい。今後の意見等はメールで事務局へ。各委員に配信するとともに、資料作成に生かしてもらおう。

3 その他

◆第6回検討委員会日程について

○次回の会議は、2月5日(金) 14時からとする。対面かオンラインか等、詳細は追ってお知らせする。

4 閉会

以上